

「新しい友だち」

四方田有希さん

今年四月、金沢小学校に転校生が来てくれました。私と同じ三年生です。私は三年生になって、はじめて同じ学年の友だちができました。金沢は、子ども

の人数が少なくて、私が入学した時は、一人だけの一年生で、二年生になっても、ずっと一人きりでした。

学校の中では、先生も上級生もみんなやさしくしてくれるし、休み時間は、みんなでいっしょにあそんでいるから、さみしくはなかったけれど、お勉強の時だけは、もっとお友だちがいてほしいなあと思っていました。だから転校生が来てくれて、私はすごくうれいす。

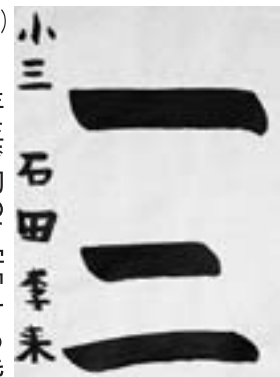
今までは、国語の本読みも一人で読むだけだったけど、今は、となりのせきから、同じ所を読む声が聞こえてきます。二人で交代しながら読むこともできるし、声を合わせて読んでいると、とても楽しくなってきました。

算数の勉強は、二年生よりむずかしくなってきたけど、二人で考えながらやると、「あっ、そうか。」と気づくことがたくさんあります。計算でまけると「くやしいな。」と思うこともあるけど、「次はまけないぞ。」とがんばる気持ちも出てくるようになってきました。

何をやっても、二人で力を合わせてやるとおもしろいです。だから、これからもずっと仲よくがんばっていききたいと思っています。

(評) 友だちがそばにいてくれるってすてきなことだなあと、心があたたくなりました。

石田李来くん



(評) 3年生で初めて学習する毛筆です。筆遣いに気をつけて、大きくのびのびと書けました。

山中くるみさん



(評) 横画とたて画の筆遣いができ、ていねいに書けました。

「えんそく」

大豆生田明里さん

(評) おおぜいのともだちとたのしそうにあそんでいるようですが、しっかりとかけました。



田島 慶くん



中一 田島 慶
江戸時代の道具は、金物、木、布、紙など、どれも天然素材であった。金物は煮とかせば何度でも再生がきき、それ以外のものは最終的に植物性のきれいな灰となった。まめなりサイクルをする江戸の心がけもさることながら、このように、道具をはじめとする身の回りの物がすべて再利用できる素材で作られていたというのも、今の大きな違いであろう。

(評) 全体的に形が整い、力強くのびのある作品。名前も本文に劣らずよく練習した字である。授業中も一点画、集中して書く姿勢が見えた。家庭などでの練習も含めると百五十枚は書いたという。まさに、練習成果のたまものである。